

例 言

1. 本書は科学研究費（学術研究助成基金助成金（基盤研究C））の交付を受けて実施した「6世紀の埴輪生産からみた「部民制」の実証的研究—奈良盆地を中心に—」（課題番号：16K03179）に関する研究成果報告書である。

2. 研究経費

平成28年度	直接経費	1700千円	間接経費	510千円
平成29年度	直接経費	500千円	間接経費	150千円
平成30年度	直接経費	500千円	間接経費	150千円
令和元年度	直接経費	900千円	間接経費	270千円
令和2年度		（補助事業期間延長）		
合 計		3600千円		1080千円

3. 研究体制

研究代表者：廣瀬 覚 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 主任研究員
研究分担者：大澤 正吾 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 研究員

4. 主な研究成果

廣瀬 覚2017「明石川流域における埴輪の展開とその背景」『播磨の埴輪』第17回播磨考古学研究会 集会実行委員会

廣瀬 覚2018「津門稲荷町遺跡と西摂地域の埴輪」『新発見・西宮の地下に眠る古代遺跡』大手前大学史学研究所・西宮市教育委員会

廣瀬 覚2018「書評と紹介 篠川賢・大川原竜一・鈴木正信編著「国造制・部民制の研究」『日本歴史』第845号

大澤正吾2018「ウナベ古墳造出周辺採集の埴輪」『奈良文化財研究所紀要2018』

廣瀬 覚2019「栄山江流域における円筒埴輪の展開過程」『国立歴史民俗博物館研究報告』第217集

廣瀬 覚2019「埴輪の生産流通からみた古墳時代の権力生成」『考古学研究』第66巻第3号

廣瀬 覚2021「昼飯大塚古墳の埴輪生産体制再考」『昼飯の丘に集う—中井正幸さん還暦記念論集—』
および本書

5. 本研究に関する三次元モデルは、Agisoft社のMetashape Professionalを使用して作成した。デジタル画像の取得には、Sony製カメラ a 7 II およびRX100Vを使用し、モデル画像の出力には、Geomagic Verify Viewerを用いた。

6. 本研究遂行にあたっては、下記の方々および関係機関から多大なるご支援・協力を賜った。

有馬 伸、池峯龍彦、石田大輔、泉 真奈、伊藤聖浩、犬木 努、今西康宏、梅木謙一、内田真雄、

柿沼菜穂、加藤一郎、鐘方正樹、北中恭裕、北山大熙、木村 理、下大迫幹洋、杉山拓己、清喜裕二、土屋隆史、露口真広、鶴見泰寿、徳田誠志、豊島直博、中居和志、中島和彦、中島皆夫、丹羽恵二、橋本輝彦、廣瀬智子、細川康晴、水野敏典、松井一晃、村瀬 陸、山内英樹、山下隆次、横田真吾、吉澤則男、香芝市教育委員会、橿原市教育委員会、京都府立山城郷土資料館、宮内庁書陵部陵墓課、堺市博物館、堺市文化財課、桜井市教育委員会、天理市教育委員会、長岡京市埋蔵文化財センター、奈良県立橿原考古学研究所、奈良市埋蔵文化財調査センター、羽曳野市教育委員会、藤井寺市教育委員会、松山市考古館、大和高田市教育委員会（敬称略、五十音順）。

7. 本書中の筆者撮影写真、三次元モデル画像の掲載に関して、香芝市教育委員会、橿原市教育委員会、宮内庁書陵部陵墓課、堺市文化財課、天理市教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所、奈良市教育委員会、羽曳野市教育委員会、藤井寺市教育委員会、大和高田市教育委員会よりご快諾を賜った。